

## V 新しい学校配置案

### 1 学校再編の取組期間

- (1) 学校の再編は20年先を見据え、5年間で1期として4期に分けて取り組みます。
- (2) 本計画の計画期間は、令和2年(2020年)から令和11年(2029年)までの10年間、第2期までとします。
- (3) 計画内容は、学校教育を取り巻く環境の変化や再編の進捗状況、教育に関する制度改正等を踏まえ、5年ごとに見直します。

第1期：令和2年(2020年) ～ 令和6年(2024年)
第2期：令和7年(2025年) ～ 令和11年(2029年)
第3期：令和12年(2030年) ～ 令和16年(2034年)
第4期：令和17年(2035年) ～ 令和21年(2039年)

### 2 優先順位

より良い学習環境の整備の観点から、以下の考え方で再編を進めます。

- (1) 複式学級・学年各1学級の解消(第1期)
- (2) 望ましい学校教育環境の整備(第1～2期)
- (3) 小中学校のグループ化の推進(第3期～4期)

### 3 配置案

- (1) 十王・豊浦エリア
- (2) 日高・滑川エリア
- (3) 本庁エリア
- (4) 多賀北エリア
- (5) 多賀南エリア
- (6) 南部エリア
- (7) 中里エリア

### 3 配置案

#### (1) 十王・豊浦エリア（山部小、櫛形小、豊浦小／十王中、豊浦中）

##### ア 小中学校の現状

##### (ア) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
山部小	24人（3）	13人（3）
櫛形小	855人（27）	459人（14）
豊浦小	497人（16）	267人（12）
児童数計	1,376人	739人

- ・山部小の複式学級の解消は見込めない。
- ・櫛形小は現在、児童数が市内最多であるが、学区内の大規模団地分譲がピークを過ぎ、児童数は減少傾向に転じている。

##### (イ) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
十王中	474人（15）	255人（9）
豊浦中	252人（8）	135人（6）
生徒数計	726人	390人

- ・豊浦中は豊浦小の児童数減少に伴う中学校の小規模化で教員配置などに課題が見られ、今後、学習活動や部活動への影響が懸念される。
- ・各学年3学級を維持するための人数は、81人×3学年＝243人以上であるが、十王中は、今後、学年によっては3学級を維持できなくなる可能性がある。

##### イ 再編の考え方

##### (ア) 小学校

- ・複式学級の解消に優先的に取り組む。
- ・櫛形小学区南端に位置する大規模団地に児童の居住が偏っている。
- ・通学区域の見直しを行っても山部小の複式学級の解消は見込めない。
- ・山部小と櫛形小の統合が望ましいと考える。

##### (イ) 中学校

- ・十王中と豊浦中の通学区域の見直しを行っても目指す学校規模の確保が見込めない。
- ・十王中と豊浦中の統合が望ましい。

- ・両校ともエリアの端に位置しているため、通学距離、円滑な小中一貫教育の進め方などを勘案しながら、統合校の位置は慎重な検討が必要。

(2) 日高・滑川エリア（日高小、田尻小、滑川小／日高中、滑川中）

ア 小中学校の現状

(ア) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
日高小	475 人（16）	255 人（12）
田尻小	508 人（16）	273 人（12）
滑川小	336 人（12）	180 人（6）
児童数計	1,319 人	708 人

- ・滑川小は宮田小から、田尻小は日高小から分離、開校。
- ・学区内の公営住宅入居者の高齢化などからピーク時の約 36%まで児童数が減少。
- ・滑川小も学区内に公営住宅や大規模団地があるが、同様にピーク時の約 31%まで児童数が減少。

(イ) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
日高中	356 人（12）	191 人（6）
滑川中	357 人（11）	192 人（6）
生徒数計	713 人	383 人

- ・滑川中は、日高中、駒王中から分離、開校。
- ・滑川中の敷地の一部は津波浸水想定区域に含まれる。
- ・将来的には、両校ともに目指す学校規模を確保することは難しい見込み。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・通学区域の見直しを行っても、3校がそれぞれ目指す学校規模を維持することは難しい。
- ・目指す学校規模の確保のため、2校に再編することが望ましい。
- ・通学距離、エリア内の配置バランスなどを考慮し、例えば、田尻小を分割し、日高小、滑川小へ統合するなどの再編が望ましい。

(イ) 中学校

- ・両校とも目指す学校規模の維持が難しい。
- ・統合して分散進学を解消することが望ましい。
- ・両校はエリアの端に位置しているので、通学距離、円滑な小中一貫教育の進め方などを考慮して、統合校の位置はエリアの中心部である田尻小の校

地を活用することが望ましい。

- (3) 本庁エリア（宮田小、仲町小、中小路小、助川小、会瀬小／駒王中、平沢中、助川中）

ア 小中学校の現状

(7) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
宮田小	362 人（12）	194 人（6）
仲町小	129 人（6）	69 人（6）
中小路小	119 人（6）	64 人（6）
助川小	376 人（13）	202 人（6）
会瀬小	323 人（12）	174 人（6）
児童数計	1,309 人	703 人

- ・会瀬小、中小路小は、助川小から分離、開校。
- ・本市の中心市街地で人口が多く、狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていた。
- ・近年は少子化の影響により、各校とも小規模化。
- ・総じて、小規模校が多く、仲町小や中小路小は全学年が各1学級、本計画期間中には、会瀬小も複数の学年で各1学級となる見込み。

(イ) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
駒王中	281 人（8）	151 人（6）
平沢中	87 人（4）	47 人（3）
助川中	297 人（9）	160 人（6）
生徒数計	665 人	358 人

- ・駒王中は、平沢中から分離、開校。
- ・本市の中心市街地で人口が多く、狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていた。
- ・近年は少子化の影響により、各校とも小規模化。
- ・平沢中は仮校舎を使用しているため、早期の改善が必要。
- ・生徒数の減少により、「教員配置に支障が出る」、「部活動の選択肢が少ない」などの課題がある。
- ・駒王中は敷地が狭隘。

イ 再編の考え方

(7) 小学校

- ・互いに距離が近く、それぞれに児童数が少ないため、学区の見直しを行っ

でも目指す学校規模を確保することは難しい。

- ・通学距離やエリア内の配置バランスなどを勘案しながら、2～3校に再編することが望ましい。

(イ) 中学校

- ・学区の見直しを行っても、目指す規模を維持することは難しい。
- ・3校の統合により分散進学を解消し、統合校の位置は、通学距離や円滑な小中一貫教の進め方などを考慮して、学校の位置はエリアの中心とすることが望ましい。

(4) 多賀北エリア（成沢小、諏訪小、油縄子小、大久保小／多賀中、大久保中）

ア 小中学校の現状

(ア) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
成沢小	252 人（9）	135 人（6）
諏訪小	282 人（12）	151 人（6）
油縄子小	193 人（7）	104 人（6）
大久保小	490 人（16）	263 人（12）
児童数計	1,217 人	653 人

- ・油縄子小は大久保小、河原子小、成沢小から、諏訪小は大久保小、成沢小から分離、開校。
- ・山側団地の少子高齢化が特に顕著で、児童数の減少に影響。
- ・狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていた。
- ・エリア内には、大学、高校、商業施設、工場などがあり、宅地が少ない。
- ・近年は少子化の影響により、各校が小規模化。

(イ) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
多賀中	363 人（11）	195 人（6）
大久保中	492 人（15）	264 人（9）
生徒数計	855 人	459 人

- ・大久保中は、多賀中から分離、開校。
- ・将来的には両校とも小規模化が進行する見込み。
- ・多賀中は目指す学校規模の確保が難しく、大久保中も目指す学校規模を維持できない可能性がある。
- ・今後、両校とも、教員配置や部活動数に課題が生じる可能性がある。
- ・多賀中と油縄子小は、同一敷地内に隣接している市内唯一の校区。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・成沢小、諏訪小、油縄子小は互いに距離が近く、それぞれに児童数が少ないため、学区の見直しを行っても全学年各1学級を回避することは難しい。
- ・3校を統合することが望ましい。



(イ) 中学校

- ・通学区域の見直しによっても、目指す学校規模の維持は難しい。
- ・統合により、学校規模の確保と分散進学を解消することが望ましい。
- ・エリアのほぼ中央に位置し円滑な小中連携がとりやすいこと、広い校地が確保できることから、現在の多賀中に施設一体型の小中一貫校の整備を検討する。

(5) 多賀南エリア（河原子小、塙山小、大沼小、金沢小、水木小／河原子中、台原中、泉丘中）

ア 小中学校の現状

(7) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
河原子小	195 人（7）	105 人（6）
塙山小	295 人（11）	158 人（6）
大沼小	513 人（16）	276 人（12）
金沢小	272 人（11）	146 人（6）
水木小	388 人（12）	208 人（6）
児童数計	1,663 人	893 人

- ・大沼小は大久保小から、金沢小は大久保小、大沼小から、塙山小は金沢小、大久保小から分離、開校。
- ・7つのエリアの中で最も児童数、学校数が多い。
- ・狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていた。
- ・山側団地の少子高齢化が児童数の減少に影響し、団地の児童が通学する学校は小規模化。
- ・半数の学校で1学級の学年があり、将来的には、大沼小を除く学校で全学年が各1学級となる見込み。
- ・学区が複雑に入り組み、分散進学が多い。
- ・河原子小学区は、学区のおよそ半分が工場敷地で、小規模化の一因。

(イ) 中学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
河原子中	160 人（6）	86 人（3）
台原中	192 人（6）	103 人（3）
泉丘中	548 人（17）	294 人（9）
生徒数計	900 人	483 人

- ・泉丘中は多賀中から分離した大沼中（現在の大沼小の場所に小中学校を設置）を前身とし、その後、泉丘中として現在地に開校。
- ・河原子中は多賀中から、台原中は泉丘中から分離、開校。
- ・河原子中と台原中の小規模化が進み、教員配置や部活動数に課題がある。
- ・小学校からの分散進学が複雑で、学校規模が偏る一因。
- ・河原子中は仮設校舎を使用しているため、早期の改善が必要。

## イ 再編の考え方

### (ア) 小学校

- ・ 目指す学校規模を確保するため、2～3校に再編することが望ましい。
- ・ 埴山小、金沢小は、少子高齢化が進む山側団地にあり、児童数の減少が見込まれる。通学の安全性なども考慮しながら再編のあり方を検討する。

### (イ) 中学校

- ・ 3校の通学区域の見直しによる学校規模の確保は難しい。また、分散進学をさらに複雑にする可能性がある。
- ・ 将来的には中学校1校分程度の生徒数となることが見込まれるため、3校を統合して分散進学を解消し、通学距離、円滑な小中一貫教育の進め方などを考慮して、学校の位置はエリアの中心とすることが望ましい。

(6) 南部エリア（大みか小、久慈小、坂本小、東小沢小／久慈中、坂本中）

ア 小中学校の現状

(7) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
大みか小	233 人（8）	125 人（6）
久慈小	264 人（10）	142 人（6）
坂本小	403 人（13）	216 人（8）
東小沢小	23 人（3）	12 人（3）
児童数計	923 人	495 人

- ・東小沢小の複式学級の解消は見込めない。
- ・東小沢小の校地の全部が津波及び久慈川氾濫の浸水想定区域に含まる。
- ・将来的には、エリア内のすべての小学校が、全学年各 1 学級または複数の学年で各 1 学級となる見込み。
- ・大みか小学区には大学、工場、J R 大甕駅などあって宅地が少ないことが、小規模化の一因。

(i) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	2019（R元）年の実績	2039（R19）年の推計
久慈中	236 人（7）	127 人（6）
坂本中	148 人（4）	80 人（3）
生徒数計	384 人	207 人

- ・両校とも目指す学校規模を下回っており、教員配置や部活動数などに課題がある。
- ・現在の久慈中、坂本中を合わせても、目指す学校規模を確保できない。
- ・坂本中の校舎は仮設校舎を使用しているため、早期の改善が必要。

イ 再編の考え方

(7) 小学校

- ・複式学級の解消に優先的に取り組む。
- ・通学区域の見直しによる複式学級の解消は見込めない。
- ・通学距離や配置バランスなどを考慮しながら、2 校に再編することが望ましい。

(イ) 中学校

- ・両校の通学区域の見直しによる、目指す学校規模の確保は難しい。
- ・久慈中と坂本中の統合により分散進学を解消。
- ・多賀南エリアの再編により、現在の大沼小の場所に中学校が設置されることになる。市内全体の児童生徒数や通学距離を考慮して、大みか小の進学先を現在の泉丘中から久慈中に変更することが望ましい。

(7) 中里エリア（中里小／中里中）

ア 小中学校の現状

(ア) 児童生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計（ ）の数字は学級数

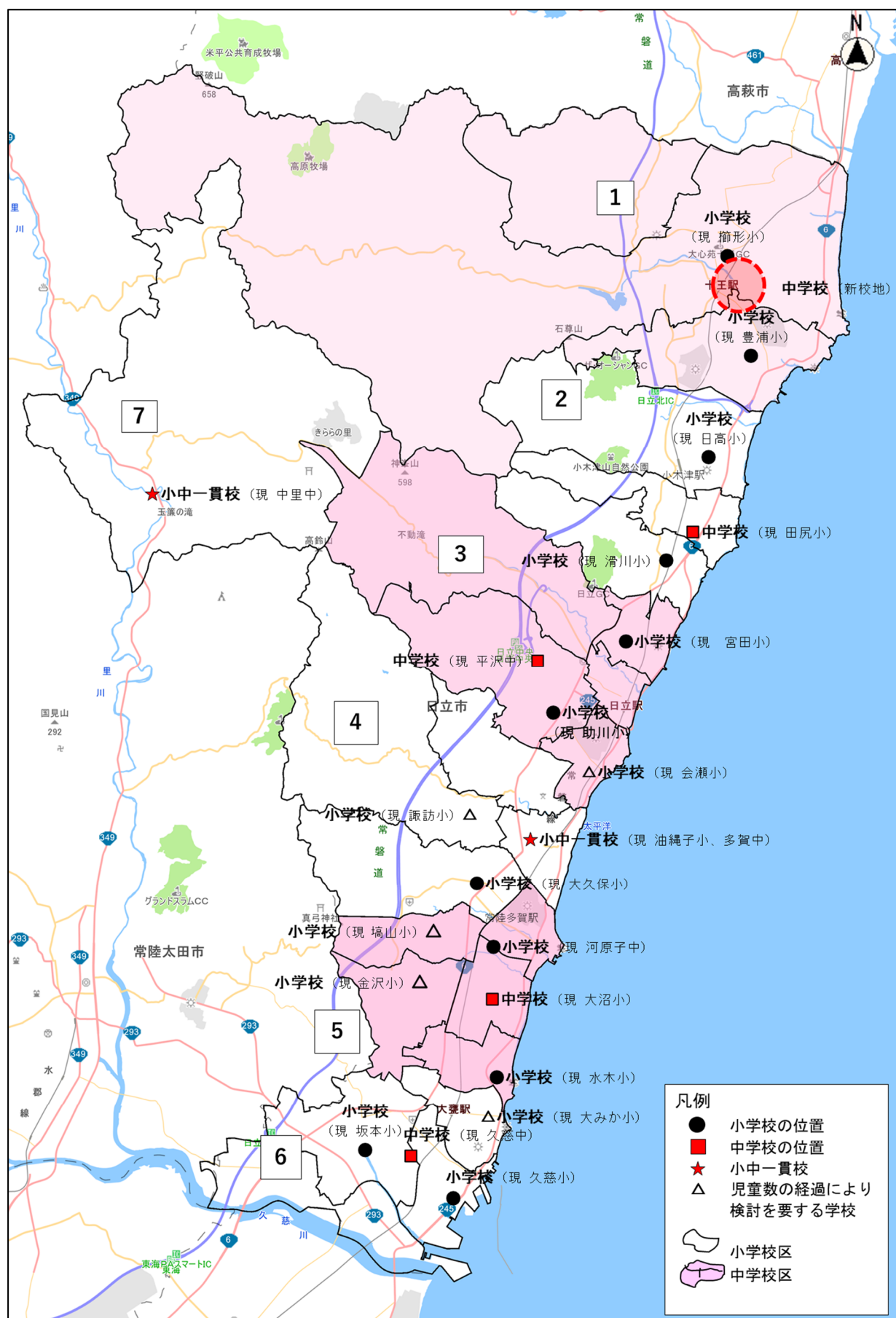
学校名	2019（R 元）年の実績
中里小	26 人（3）
中里中	19 人（3）
児童生徒数計	45 人

- ・他のエリアの小・中学校と離れて立地しており、徒歩や自転車で通学できる範囲内に統合を検討できる学校がない。
- ・平成 25 年度から小規模特認校として市内全域から通学できるようにし、多様な学習環境を提供。
- ・地域の特性を生かした特色ある小中一貫教育を行う。

イ 再編の考え方

- ・多様な学習環境を提供しながら児童生徒の教育ニーズに応えられるよう小規模特認校制度を継続する。
- ・中学校の校舎は耐震性に課題があり、義務教育学校への移行を視野に入れた施設一体型小中一貫校として整備を検討。

# (1) 再編後の学校の位置



## 4 進め方

再編計画策定後は、次の手順で進めます。

### (1) (仮称) 統合準備委員会の設置 (再編対象校)

- ア 具体的な再編の準備を進めるため設置する。
- イ 統合準備委員会では、新しい学校を開設するために必要となる具体的な事柄を協議する。  
(例) 新たな学校名、校章、制服、児童の事前交流の方法等
- ウ 検討の経過は、対象地域に対し、広報紙などで随時、報告、周知する。



### (2) 実施計画の取りまとめ (市)

協議結果を踏まえ、実施計画を取りまとめる。



### (3) 再編着手 (市・再編対象校)

新校設置に向けた諸手続きを行なう。  
(例) 条例、規則の改正等



## 5 再編対象校

エリア	校種	第 1・2 期 (2020～2029)	第 3・4 期 (2030～2039)
		○複式学級・学年各 1 学級の解消 ○望ましい学校教育環境の整備	○小中学校のグループ化の推進
十王 豊浦	小学校	山部小、櫛形小	
	中学校		十王中、豊浦中
日高 滑川	小学校		日高小、田尻小、滑川小
	中学校		日高中、滑川中
本庁	小学校	宮田小、仲町小、中小路小	助川小、会瀬小
	中学校	平沢中、駒王中、助川中	
多賀北	小学校		成沢小、諏訪小、油縄子小
	中学校		多賀中、大久保中
多賀南	小学校	河原子小、大沼小、水木小	塙山小、金沢小
	中学校	河原子中、泉丘中	台原中
南部	小学校	久慈小、坂本小、東小沢小	大みか小
	中学校	久慈中、坂本中	
中里	小学校	中里小	
	中学校	中里中	